デートDVの被害・加害・ダメージ (4)

——性交渉経験との関連——

○井ノ崎敦子¹・上野淳子²・松並知子³・赤澤淳子⁴・青野篤子⁴

(1)徳島大学保健管理・総合相談センター・(2)四天王寺大学人文社会学部・(3)武庫川女子大学・(4)福山大学人間文化学部)

キーワード: デートDV, ジェンダー, 恋愛

Risk factors and correlates of dating violence (4)

Atsuko INOSAKI¹, Junko UENO², Tomoko MATSUNAMI³, Junko AKAZAWA⁴, and Atsuko AONO⁴

(1)Health Service and Counseling Center, Tokushima Univ., (2) Faculty of Humanities and Social Sciences, Shitennoji Univ., (3)Mukogawa

Women's University, (4)Faculty of Human Cultures and Sciences, Fukuyama Univ.)

Key Words: dating violence, gender, romantic relationship

目 的

恋愛関係において性交渉を経験すると、情動的な激しさの増大によって親密性が増加するとともに、交際相手への影響力を所持したいとの欲求も高まり、デートDVのリスクが増加することから、性交渉経験のあるカップルのほうが性交渉経験のないカップルよりもデートDVの被害経験者が多い(Kaestle, et.al., 2005)。一方、性交渉経験で互いの信頼を深める可能性があるため(斎藤ら, 2000), デートDVの生起には性交渉経験による心理的効果状況が影響すると考えられる。そこで本研究ではデートDV被害者支援充実化を見据えて性交渉経験による心理的効果と被害経験との関連性について検討することを目的とした。

方 法

2014年11月、全国の20-35歳未婚者を対象にインターネット調査を行い、500名の回答を得た(男性234名、女性264名、その他2名、平均年齢27.88歳)。さらに2014年12月から2015年1月にかけて、中国、近畿、北陸地方の大学、短大の学生に質問紙調査を行い、616名の回答を得た(男性141名、女性461名、その他1名、不明13名、平均年齢19.97歳)。以上の回答者のうち性交渉経験効果尺度に回答した467名を本研究の分析対象者とした。主な調査内容は以下の通りである。

1. デートDV被害経験尺度(18項目) 研究(1)と同様の尺度を使用し、回答も研究(1)と同様に7件法により求めた。
2. 自尊感情尺度(10項目) Rosenberg(1967)の邦訳版(山本ら, 1982)であり5件法で回答を求めた。
3. 性交渉経験効果尺度(10項目) 本研究で独自に作成した尺度であり、性交渉経験による心理的効果について、「よくあてはまる」から「全くあてはまらない」までの5件法で回答を求めた(Table1)。

結 果

1. デートDV被害経験 研究(1)の分析結果と同様、デートDV被害経験尺度を「精神的暴力: 孤立(以下、孤立)」「精神的暴力: 自尊心低下(以下、自尊心低下)」「身体的暴力、脅迫(以下、身体・脅迫)」「性的暴力」といった4因子に下位尺度化した。
2. 性交渉経験効果 因子分析(主因子法, varimax回転)により「交際相手信頼(以下、相手信頼)」「自己信頼(以下、自己信頼)」の2因子が抽出され、これらを下位尺度化した。
3. 自尊感情と性交渉経験効果との関連 自尊感情得点の上位25%を「自尊感情高群(以下、高群)」、下位25%を「自尊感情低群(以下、低群)」として各群の性交渉経験効果についてt検定を行ったところ高群が低群よりも性交渉経験効果が有意に高かった(Table2)。
4. デートDV被害経験と性交渉経験効果との関連 (1)全体及び性別ごとの相関

回帰分析の説明変数選択の参考にする目的も含めて相関を算出したところ、全体では高群において「孤立」と「相手信頼」との間に負の相関($r=-.18, p<.05$)、「身体・脅迫」と「自己

信頼」との間に負の相関($r=-.18, p<.05$)が見られた。また男性では低群において「孤立」と「自己信頼」との間に負の相関($r=-.33, p<.05$)、高群において「孤立」と「自己信頼」との間に負の相関($r=-.36, p<.05$)、「自尊心低下」と性交渉経験効果との間に負の相関が見られた(相手信頼: $r=.48, p<.01$; 自己信頼: $r=-.36, p<.05$)。さらに女性では高群において「身体・脅迫」と「相手信頼」との間に負の相関が見られた($r=-.28, p<.05$)。

(2)デートDV被害生起要因としての性交渉経験効果

中等度の相関が見られた変数間における回帰分析を行った。まず男性低群と高群の「孤立」を従属変数、「自己信頼」を独立変数とした単回帰分析を行ったところ、「自己信頼」から「孤立」へ負の有意なパス係数を示した(低群: $R^2=.10, p<.05, \beta=-.33, p<.05$; 高群: $R^2=.13, p<.05, \beta=-.36, p<.05$)。また、男性高群の「自尊心低下」を従属変数、性交渉経験効果を独立変数とした重回帰分析を行ったところ、「相手信頼」から「自尊心低下」への負のパス係数が有意であった($R^2=.23, p<.01, \beta=-.47, p<.05$)。

考 察

以上の結果から自尊感情が高い者、中でも男性において性交渉経験効果の得難さがデートDVの被害につながりやすいという結果となったのは、性を関係性の質を測る指標の一つと認識できていることが背景にあると推察された。以上のことから、デートDV被害者支援においてジェンダー、自尊感情、及び性交渉経験効果、さらに性に関する理解成熟度を総合的に考慮することが重要であると考えられる。

引用文献

- Kaestle, C.E. & Halpern, C.T. 2005 Sexual intercourse precedes partner violence in adolescent romantic relationships, *Journal of Adolescent Health*, 36, 386-392.
斎藤益子・木村好秀 2000 中高年女性の性的生活意識(第1報) 日本女性心身医学会雑誌, 5(1), 47-53.

Table1 性交渉経験効果尺度項目の一部

<交際相手信頼>	
・性交渉経験後のほうが経験前よりも交際相手への想いが強くなった	
・性交渉経験後のほうが経験前よりも恋人との心理的距離が縮まった	
<自己信頼>	
・性交渉経験後のほうが経験前よりもちょっとしたことで喜びを感じるようになった	
・性交渉経験後のほうが経験前よりも他人にやさしくなった	

Table2 各自尊感情群間の性交渉経験効果の差

	自尊感情				
	低群		高群		
	M	SD	M	SD	<i>t</i>
交際相手信頼	13.87	4.06	15.31	4.06	-3.18 **
自己信頼	11.12	3.73	12.33	4.38	-2.68 **
*** $p < .05$					